

次世代 AIS について

野口 英毅（海上保安庁交通部整備課安全システム開発室）

Automatic Identification System (AIS)は、1998年に国際海事機関（IMO）で性能要件が定められ、2002年から300トン以上の船舶を対象に搭載が定められた。本来は、船舶の衝突を回避するための機器として開発されたAISであるが、その拡張性及び利便性から、SOLAS非対象船用のClass B、航路標識に設置する航路標識AIS等のAIS技術を利用した機器がさらに開発されてきている。また、デジタルデータの送受信が可能なことから安全関連情報の伝達システムとしての利用も考えられている。

IMOでは、現在、IT技術を利用し、海上の情報の統一的・包括的な交換により航海の安全等を図るe-navigation戦略実施計画を策定中であり、AISはその主要な通信手段となる可能性を秘めている。このため、国際航路標識協会（IALA）では、より能力を向上させた次世代AISの検討を開始している。

本講演では、これまでのAIS技術の発達を振り返り、次世代AISとその展望についてIMOやIALAで行われている議論を中心に紹介する。